

## Juju Information Vol.70

## Juju(こと、野田樹潤)

BOSS GP 第4ラウンド オランダ・TTサーキットアッセン  
メンタル成長を立証！レース 2 圧勝で、優勝。今季 2 勝目

## 初めてのサーキット、2 度のフリー走行を十分に走れない中、予選は逆転トップ！

Juju (こと野田樹潤 NODA レーシング所属) は、8 月 2 日 (金) -4 日 (日)、オランダ・TT サーキットアッセンで行われた BOSS GP 第 4 ラウンドに出場しました。

Juju にとっては、初めて走るオランダ・TT サーキットアッセン。2 日 (金) の 2 度のフリープラクティス (FP) は、メカニカルトラブルで走ることができず。しかし、3 日 (土) の予選は、メカニックが渾身の努力でマシンを調整。残り 1 周で逆転のトップタイムを叩きだし、ポールポジションを獲得しました。

当日午後の決勝レース 1 は、スタートミスが響いて 6 位。グランドスタンドを埋め尽くした観客も注目する翌日の決勝レース 2 は、スタートダッシュを決めると独走。初めてのコースでも適応力の高さを見せ、2 番手に 24 秒の大差で圧勝。BOSS GP 今季 2 勝目を挙げました。

Juju が常日頃言っている“負けても、負けても、諦めない！”。FP で走れなかった不安を吹き飛ばす、予選トップ。そして、決勝レース 2 では、圧勝。大きく成長したメンタルの強さを立証する戦いを見せました。



2 日 (金) 午前の朝、Juju のマシンを担当するチーフメカが負傷するというアクシデントがあり、チームに不安を抱える中での FP となりました。Juju は、走り出した直後にメカニカルトラブルでストップ。「初めてのサーキットなのに走れないのは苦しいな。今年はトラブルがよく出る。そんな時もあるのかな。こんな状況で、チームは精一杯、午後のセッションに間に合わせようと頑張ってくれている。予選までの走行は、午後の FP2 の 25 分のみ。まだコースもよくわかってない中で苦しいけど、頑張る！焦ってもしようがない。Let's do best we can (できる限りのことを、やるのみ!)」と、Juju。午後

の FP2。FP 1 で発生したトラブルは修復。しかし、FP2 のセッション開始まもなく今度は別のトラブルが発生。結局、FP ではまともに 1 周も走れずに、3 日の予選を迎える事になってしまいました。Juju は、「さす

since 1997  
route one co., ltd

NODA RACING ACADEMY



がに初コース、高速コーナーが続くアッセンで1周もまともに走れずに予選に挑まなくてはならない状況は危険だし、苦しすぎる。強がりでも頑張るとは言える状況じゃなくなりました。チームは、頑張ってくれています。今週は、マイペースで行くしかなさそう。」と、冷静に受け止めていました。

そして、臨んだ3日(土)の予選。初めて走る高速コーナーが続くアッセン・サーキット。まずは、サーキットを習得するところから始め、徐々にペースアップ。さあ、これからアタック開始というときに、他車のアクシデントから赤旗が出されて中断。再開後、果敢にアタック開始。周回ごとにペースをあげ、ポジションアップしていくもののトップタイムには届かず。ここで、Jujuは、まさに渾身のアタック。予選終了時間が迫り、これが最後のアタックという1周で、Jujuは、それまでトップタイムを0秒2短縮するトップタイムを記録し、ポールポジションを獲得しました。

ピットにJujuがもどると、チームのプリンシパルのバレリオ氏が「ブラボー！」と叫び、元フェラーリF1のエンジニアを務めた経験を持つチームメンバーが両手を広げて迎えます。「昨日の苦しい状況からここまでやってこれた事、いきなり乗ってここまでセットを出してくれたMMIチームに感謝です。みんなで価値のある予選ができたと思う。」と、笑顔で語りました。



予選から3時間半後、逆転でポールポジションを獲得した興奮が冷めやらぬ午後の決勝レース1。ポールポジションからのスタートながら、ホイールスピン(タイヤの空転)してやや出遅れ。一気に加速して1コーナーに飛び込んでいきます。ここで、止まりきれずにイン側のトラックリミット(コースから逸脱した走行の禁止を示す縁石)をオーバーして飛び込んできたジオット選手との接触を避けるために、Jujuはやむなくコース外に。相手はポジションアップし、Jujuは9位までポジションダウン。その直後にアクシデントがあってセーフティカーが導入。結局それが長引き、再開はレース終了まで残り6分。追い上げるにも5位が精一杯のJujuでした。「すべてはスタートで出遅れた事でこういう流れになった。反省すべき点。大逆転のポールポジションから急降下。悔やんでも悔やみきれない。明日のレース2でリベンジです。」と闘志を燃やします。



一夜明けて4日(日)、決勝レース2は、観客で埋め尽くされたグランドスタンド前からのスタート。見事にスタートダッシュを決めたJujuは、周回ごとに2番手以降を引き離す快走、手を抜く事なく、最後までプッシュ。そのまま独走で2番手に24秒の大差をつけて圧勝。BOSS GP今季2勝目を挙げました。

「(FPでは、トラブルがあったにも関わらず)予選、決勝では、安定したマシンを準備してくれたMMIのチームに感謝です。応援して下さったスポンサー、遠く日本からSNSで声援を送って下さったファンの皆様へ、ありがとうございました。」と、晴れやかな表情で語っていました。

今回のレースは、走行経験がない初めてのサーキット。マシントラブルからまったく走ることができなかったFP。そうした状況下で、限られた時間ながら集中力を高めて臨んだ予選で、逆転で獲得したポールポジション。決勝レース1は、スタートミスから敗退。しかし、見事な決勝レース2の圧勝。単に“気持ちを入れ替える”ということ以上に、座右の銘“負けても、負けても、諦めない”を糧としてきたJujuのメンタル面での成長を立証するレースでした。

次のレースは、2週間後の8月24日(土)-25日(日)栃木県茂木町「モビリティリゾートもてぎ」で開催されるSUPER FORMULA第5ラウンドです。ファンの皆さんからの大きな声援を“元気の源”にして、Jujuが挑戦します。

この件に関するお問い合わせ先：NODA RACING 広報担当 石川  
e-mail t.shikawa@noda-racing-academy.org Mobile 090-8940-1683  
岡山・美作事務局 担当 須田  
Tel.0868-75-3283/Mob.090-5128-3064 mail k.suda@noda-racing-consultans.biz